



腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介しつゝ

第四回 指爪画  
竹本 淳一さん（富岡）



▲竹本さん作『猛虎』

し、色つけには墨と顔彩を使用して、妙な濃淡がつけられていきます。市内の文化祭などに出展するほか、倉敷で個展を開くなど、市外での活動も積極的に行っています。

これからの作品づくりについては、「今までは、竹を主題として描いてきましたが、来年あたりから竹は控えていこうかと。今後は、『松竹梅』の言葉のとおり松と梅、それから、その季節の花や鳥などの動物を題材にしていこうと考えています。そして、この指爪画の幅を広げていくことが私の目標ですね。」と語っていました。

「指爪画」とは、爪と五本の指を使って描く水墨画の技法。竹の絵に魅せられ、竹本さん自らその表現方法として考え出しました。

「指爪画の魅力は、筆と違って血の通った指で描かれるため、見る人に温かみを感じさせるところですね。」と語る竹本さん。平成十年から本格的に描きはじめ、現在までに三百点以上もの作品を作っています。その作品は、竹をメインに四季折々の動物や植物を配奥行きを出すために微妙な濃淡がつけられていきます。

竹喬美術館の光彩 35



も 洩れ日 (下絵) 小野竹喬 作  
昭和39(1964)年  
104.3×142.4cm

「奥日光戦場ヶ原附近を散策していて、一瞬に得た画材である。自然の表裏が自然の姿を現している。画家の心をとらえた瞬間に、深い不思議な形を自然の姿が最も重要なポイントとして新鮮である。」

(竹喬のことば)

戦場ヶ原という地名は、かつて中禅寺湖をめぐる下野の男体山の神と上野の赤城山の神が、それぞれ蛇と大ムカデに姿を変えて争ったという伝説に由来する。標高千四百メートルの高さに湿原が広がり、竹喬の別のスケッチではその湿地帯に枯れ木が立ち並ぶ、特徴的な景色も描かれている。

しかし、実際に作品へとつながったのは、雲の合間から射し込む光が山に筋となって写し出された一瞬であった。ふもとの紅葉した並木、黄色い帯のような枯れ草も、この情景に彩りを添えている。

展覧会と行事のご案内

特別展<竹橋>時代の竹喬  
後期  
~11月27日(日)  
竹喬作<波切村>など  
をお楽しみください。

楽しむNight講座  
「国吉康雄と坂田一男」  
12月10日(土)  
18:00~19:30  
講師…廣瀬就久氏(岡山県立美術館学芸員)  
展示も20:00まで鑑賞できます。お申込みは竹喬美術館まで。入館料のみ必要です。

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>



発行日/平成17年11月1日  
発行/笠岡市役所  
編集/企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2114

印刷/アドハウス ☎66-4670

係から

国の重要無形民俗文化財「白石踊」の過疎化・少子高齢化の荒波を受け、その伝承は大きな課題となっています。

白石島では学校と家庭・地域が一体となり、伝統文化を後世に伝えるため熱心に取り組まれています。生徒数17人の白石中学校では、総合的な学習の時間を活用し、総合的な人たちの指導を受け練習を重ねています。朝日新聞社制定の第7回「朝日のびのび教育賞」を受賞しました。民泊協会の活躍で大成功を収めた国体の記憶も新しく、地域や家庭・学校が連携することの大切さを痛感しています。

(中)

今月の表紙

10月22日から27日にかけて行われた「晴れの国おかやま国体」の笠岡市競技「成年女子バスケットボール」が無事終了しました。

このために、長い期間準備にあたりたいだいた民泊協会の皆さん、大変ありがとうございました。選手たちも皆さんの期待に応えようと一生懸命のプレーをしてくれました。

また、大会を支えてくださった皆さんのボランティアの皆さん。大会のスムーズな運営にご協力いただきありがとうございました。

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>  
メールアドレス：[kouhou@city.kasaoka.okayama.jp](mailto:kouhou@city.kasaoka.okayama.jp)



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています